

栗原市地震防災マップ

地域の危険度マップ 花山地区

宮城県沖地震(単独型)の場合

○この地域の危険度マップは、地域が揺れやすさマップ(宮城県沖地震(単独型))において示された強さ(震度)の揺れとなった場合に、地震の液状化の影響を含めるとの程度の建物被害(全壊及び半壊相当)が生じるが100メートルメッシュ毎に評価し、相対的に表示したものです。

○地震の発生仕方によっては、被害の状況がこれよりも大きくなったり、小さくなったりすることがあります。

○想定した宮城県沖地震(単独型)は、平均すると37年に一度、昭和53(1978)年の宮城県沖地震と同様の場所と規模で同じように繰り返していると考えられているものです。今後30年間の発生確率は99%といわれています。マウニコード 7.6を想定しています。

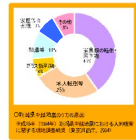
家具の地震対策も重要です。

■家具の対策

住居の全壊を免れても、ガラスの鏡やタンス等の大型家具の転倒、テレビや電子レンジ等の家電製品が壊れてくるといった、日常生活からは想像できない事態によって、恐ろけがなしたり、避難が遅れて火災に巻き込まれたりすることがあります。栗原市花山地区においても現在住居の約1割はガラスの鏡や家具類の転倒・落下によるケガによる被害が生じています。

家具や家電製品の地震対策としては、次のようなものが考えられます。

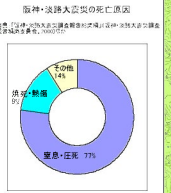
- 固定器具を用いて家具や家電製品を固定する。
- ガラスの鏡やタンス等の大型家具の転倒、テレビや電子レンジ等の家電製品が壊れてくることを防ぐ。
- 地震発生時、家具の転倒によるケガを防ぐために、家具の転倒防止対策を講ずる。
- 家具の転倒防止対策として、次のようなものが考えられます。
- 家具の転倒防止対策として、次のようなものが考えられます。
- 家具の転倒防止対策として、次のようなものが考えられます。
- 家具の転倒防止対策として、次のようなものが考えられます。
- 家具の転倒防止対策として、次のようなものが考えられます。



地域の危険度マップとは

■地域の危険度マップ

地域の危険度マップは、地震による建築物(木造)被害をその被害の程度に応じてランク別けした上で、地図に表したものです。具体的には、「揺れやすさマップ」で示した強さの揺れとなった場合に、地震の液状化(※1)の影響を含めて、全壊(※2)程度の被害を受けると想定される建築物(木造)の割合を、「危険度」として示しています。



○地震による死亡・ケガの原因は何?

阪神大震災での死者のうちの約8割は地震直後の家具、建物による圧死といわれています。

○皆さんの生命・財産を守るためには、住宅・建築物の耐震化が極めて重要です。

建築物の耐震化が重要です。

■木造住宅の耐震診断

木造住宅の耐震性は、主に3つのチェックポイントがあるとされています。

- 建てられている、お家の年月が経っているか(特に昭和56年以前に建てられたものか)。
- 住宅が過去に大きな災害(地震や水害など)を経験したことがあるか。
- 住宅の構造、形、備った大きな窓がどれくらいあるなど、耐震に関わる基本的な住宅の性質に問題がないか。

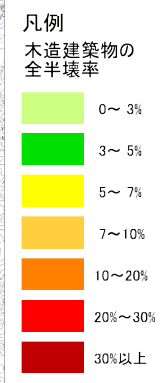


耐震性の判断には建築の専門知識が必要とされます。目立った症状がなくても、耐震診断を受けることが重要です。次のような項目に心当たりがある住宅は、特に要注意です。

- ドアあるいは窓を開けると、柱と建柱との間に著しい短長の三角形の隙間がある。
- ドアあるいは窓の建付けが悪く、建柱の間隔が変形のために思うように開かない。
- 窓の敷居が著しく水平を欠いている。
- 建物の壁面が傾斜しているのが、肉眼でもわかる。
- 床面の傾斜が著しく感じられる。
- シロアリ(4枚羽根のついでしろあり)が浴室から飛び出す。
- 屋根の棟あるいは軒先が歪んでいる。
- モルタル塗壁に長い細めのひび割れが入っている。
- 土間や浴室の土台の一部が老朽化している(腐っているなど)。



大崎市



<<問い合わせ先>>
栗原市 建設部 建築住宅課
TEL 0228-22-1153
FAX 0228-22-0313

※このマップにおいて、市の境界部等で、計算上、色の塗られていない箇所があります。

